

## 中国学会出張報告書(2015年11月2~7日)

群馬大学大学院 理工学府 電子情報・数理教育プログラム

高井研究室 修士1年 須永 祥希

日程

11/2 8:30 羽田空港発 ~ 11:30 北京空港着

14:00 北京空港発 ~ 17:10 成都空港着

11/3 成都観光

11/4-6 学会発表

11/7 15:30 成都空港発 ~ 21:00 成田空港着

早朝の羽田は静まり返っていて、これから海外へ行く緊張感が高まりました。自分にとっては初の海外でもあり、この時点では不安と楽しみが入り交じったような気分です。しかし研究室の仲間と合流すると不安も吹き飛び、これから始まる旅に胸が高鳴りました。しばらくお預けとなる日本での食事。その最後に選ばれたのは、羽田空港での牛丼でした。お決まりの味を無感動ではおぼり食欲を満たした後は、フライトまでの時間をブラブラして過ごしました。初めての税関はあまりにもあっけなくて、国外へ出る実感が湧くこともなくそのまま北京へ。



北京空港へ着くとチンタオビールとハンバーガーを買いました。初めて海外通貨を使用しました。日本より物価が安く、これからの滞在で無駄遣いをしないように気をつけなければならぬと思いました。

成都空港に到着。あっという間のフライトで、アジアって意外と近いんだなあと思いました(飛行機でほとんど寝てたからかも)。成都是中国の内陸、西側に位置していましたが、結構栄えていて驚きました。そして当たり前ですが、街の景観に一切日本語がないのをみて、本当に国外に出てきたんだなあ実感し

ました。ホテルにチェックインを済ませると、近くの四川料理屋へ行きました。四川料理はとっても辛いのでみんな苦戦していたようですが、自分にはおいしく食べられました。しかし、パクチーなどの食べられない食材や、酸味の利いた食べ物が苦手で、そっちに



四川料理

苦戦を強いられました。あまり食があわない気がして、はやくも日本に帰りたくなりました。この日の夜にスーパー(といってもイトーヨーカドー笑)に買い物に行った際に、日清のカップ麺を買って起きました。中国のビールは味が薄いです。

2日目は成都を観光しました。移動は主にタクシーでしたが、ゲームの中のような暴走運転でした。中国の交通事情はとんでもないもので、信号は守らないし車線またいで走るしで、初めての海外でカルチャーショックでした。観光はパンダみて寺みてって感じでした。この辺りは他の人の報告と大差ないので割愛します。



小堀先生との一枚



大熊猫

3日目から我々の戦いが始まりました。とは言っても初日は自分と小林先生だけでした。トップバッターの発表で、雰囲気も掴むことなくいきなり発表という感じでした。招待講演の次だったので、ギャラリーも結構いてとても緊張しました。練習の成果もあり、多少のアクシデントもありながら発表自体はなんとか切り抜けたかと思います。Q&Aの際に、チェアマンの2つ目の質問が聞き取

れなくて、小林先生が助け舟を出してくれました。あのときの先生は神様のよう  
に思えました。後光が見えました。本当にありがとうございました。発表が  
終わると、肩の荷が降りたのか、あんなに早く帰りたと思っていた中国がと  
ても魅力的に感じました。国籍も年齢も違う学生とコミュニケーションをとっ  
たりして、国際学会を満喫することに全力を尽くし始めました。小林先生の発  
表はなんなく終わり、その日は疲れたから早く寝ました。

Yoshiki Sunaga, Naoya Shiraishi, Koyo Asaishi, Nobukazu Tsukiji Yasunori Kobori,  
Nobukazu Takai, Haruo Kobayashi

“High Efficiency Single-Inductor Dual-Output DC-DC Converter with ZVS-PWM Control”  
The 11<sup>th</sup> IEEE International Conference on ASIC, Chengdu, China (Nov. 03-06, 2015)



学会発表写真

4日目は発表者が5人いました。もう発表の  
終わった自分はカメラマンでした。学会も2  
日目になると、ちらほら顔見知りが出てき  
て会話が弾みました(実際は英語が難しく、な  
んとか会話したといった感じ)。国際学会を経  
て一番思ったことは、英語の大切さでした。  
中国の学生は英語が堪能な人が多くて驚きま  
した。中国の人は積極性の高い人が多く、誰  
にでも物怖じすることなく話しかけていて、それが外国語上達につながってい



国際交流の証

るのかなと思いました。自分は、英語がわからなくても積極的にコミュニケーションをとっていた方だと思いますが、相手が根気よく話を聞いてくれて初めて会話が成立する、といった感じでした。その反面言葉が遣えなくてもコミュニケーションは成立する、とも思いました。中国滞在中、街の店員さんやホテルの従業員と会話することがありましたが、英語ができない人の方が多かったです。その際、トイレの場所を聞いたり、商品を購入したりすることはできませんでした。しかし、かわいい女の子を見かけても口説くことや、写真をとったりすることはできず、やはり言語の壁の厚さを感じました。この学会期間中に中国語をほんの少し勉強したので、英語だけでなく中国語も勉強したいと思いました。この日の夜に繁華街へ飲みに行きました。日本では見ない変わったお酒とおつまみを味わって、異国の夜を満喫しました。



ホテル周辺散策

5日目、学会も無事終わってバンケットに参加しました。学会というと堅苦しいイメージがありましたが全然そんなことはなくて、ショーをみてお酒を飲んでご飯を食べる、一言でいうと宴会でした。こうして国際学会は終わりを迎えました。

最終日、ホテルで最後の朝食を取り、チェックアウトしました。五つ星だけあってかなりきれいなホテルでしたが、自分にはホテル生活は合っていないようで、とても我が家が恋しくなりました。帰りの飛行機は本を読んでいるとあっという間に到着しました。空港で久々に日本語を見るととても安心しました。帰りの空港-自宅のタクシーの中では、東野と荒船と一緒にでしたが、3時間くらいの移動でも話題が尽きることはありませんでした。かなり密度の濃い6日間だったと思います。

最初は不安だらけでしたが、終わってみれば楽しい思い出と貴重な体験に満ちた、とても充実した6日間でした。このような機会を作ってくくださった小林先生をはじめ多くの方々に感謝の意を表し報告書を終わらせていただきます。